

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)  
 分担研究報告書

頚椎頸髄損傷患者と頚椎後縦靭帯骨化症の関係に関する調査研究

研究分担者 氏名 種市 洋

所属機関名 獨協医科大学整形外科

研究要旨 当科に搬送された頚椎頸髄損傷患者と OPLL の関係について調査した。全頸髄損傷患者の約 4 割が OPLL 合併症例であり、非骨傷性頸髄損傷症例では約半数が OPLL 合併例であった。受傷機転は転倒が多く、比較的軽微な外力で頸髄損傷を受傷する可能性が示唆された。

A . 研究目的

頚椎 OPLL の発生頻度は年間約 3%とされている。当科では年間約 20 名の頸髄損傷患者を受け入れており、その内どの程度が OPLL を合併しているかを調査する目的で本研究を行った。

B . 研究方法

2010 年 2 月～2016 年 6 月に頸髄損傷のため当科に搬送された 86 例を対象とした。調査項目は OPLL の有無、骨傷の有無、受傷機転、麻痺の程度とした。

C . 研究結果

全 86 例中 OPLL 合併例は 33 例(37%)で非合併例は 53 例(63%)であった。骨傷があったのは 31 例(36%)で非骨傷性は 55 例(64%)であった。また、非骨傷性頸髄損傷 55 例の内 29 例(53%)が OPLL 合併例であり、26 例(47%)が非合併例であった。受傷機転は転倒 31 例、転落 31 例、交通外傷 22 例、その他 2 例と比較的軽微な外傷が多かった。麻痺の程度は重症例である改良 Frankel 分類 C 以上で見ると 73 例中 27 例(37%)が OPLL 合

併例であり、非骨傷性頸髄損傷では 44 例中 23 例(52%)が OPLL 合併例であった。

D . 考察、

全頸髄損傷患者の約 4 割が OPLL 合併例であり、非骨傷性頸髄損傷例では約半数が OPLL 合併症例であった。受傷機転は比較的軽微である転倒が 81 例中 31 例と多く OPLL 患者が比較的軽微な外力で頸髄損傷を受傷する可能性が示唆された。今後は狭窄程度や OPLL 形態と麻痺の関係や MRI 画像について評価する必要がある。

E . 結論

頚椎頸髄損傷患者における OPLL の合併頻度は高く、比較的軽微な外力で頸髄損傷を引き起こす可能性が示唆された。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G . 研究発表

1. 論文発表

無し

2.学会発表

H28年度脊柱靱帯骨化症班会議

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1.特許取得

無し

2.実用新案登録

無し

3.その他

無し